

2018年度森林公園だより No.13 2018年7月27日

酷暑が続いているためか、園内はとても静かです。散策の場合、朝か夕方が良いかもしれません。日中は昆虫観察ができます。クワガタムシやカブトムシもいますが、他にも多くの個性的な昆虫たちを観察することができます。そっと近づき、ゆっくりと観察すれば、普段は慌てて逃げていく昆虫たちが、触角を掃除したり、足こそこそ動かしたりと、なかなか見られない動きを見ることができます。花は少ない時期ですが、秋に大量に落ちるどんぐりが少しずつ大きくなってきている様子や、地面から出る赤いきのこ(ベニタケの仲間)を見ることがもできます。これらは遊歩道をゆっくり歩けばまず出会えますのでぜひ自然観察にいらっしゃってください。ツリークライミング体験、親子木工品づくり体験の参加者を募集しています。

中央林道



バッタの仲間



シオヤアブ(オス)



カワトンボの仲間



トモエガの仲間



ミヤマクワガタ(ペア)



ムカデ(カミキリムシを捕食)



ベニタケの仲間



テングタケの仲間



クヌギ(どんぐり)



一口メモ

ムカデは噛まれると激しく痛むため、とかく嫌われがちですが、森林においては、昆虫を捕食する重要な位置にいます。これらがいなくなると、昆虫が増えすぎ、枯れてしまう木が増えてしまうことでしょう。森林内で見かけたときはむやみに殺さずに、その動きなどをよく観察してみましょう。

不快害虫という言葉もありますが、ヤスデなどは特に足が多いというだけで嫌われていますが、これまた森林の物質循環において重要な役割を果たしています。